

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH あじさいユニット		
所在地	大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和5年6月19日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2172100832-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様同士のもめごと等があった際は職員が間に入り、衝動での席配置も工夫し、より良い人間関係が築いていけるよう心掛けました。居室の中の掃除や、食堂の環境作りにも力を入れました。利用者様が笑顔で過ごしていけるよう声掛けを多く行い、賑やかな空間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に併設された地域交流センターを町内会や老人会、子供会に開放して多くの方が利用している。地域の保育園児が事業所を訪れて利用者と交流したり、地域の老人会が事業所の草取りを手伝ったりして地域とのつながりを大切にしている。管理者は、職員に意見を否定せずに傾聴し、必ず返答することを心掛けている。外部研修会への参加は、正社員・パート社員の区別せず、出勤扱いとし参加費は事業所が負担している。事業所内にハザードマップや避難確保計画を掲示して職員に周知している。夜間想定を含めて年2回避難訓練や風水害、自家用発電機など様々な災害を想定した訓練を積極的に行っている。職員は利用者の思いを受け止め、心を豊かに安心して暮らせるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット毎に見やすい場所に掲示し、いつでもどんな時でも、ふとした時に確認し実践できるようにしている	毎年、法人の理念に沿った事業所の行動指針を職員間で話し合い作成している。職員は、日常生活に利用者の要望を取り入れ、安心して暮らせるように支援している。利用者のペースを大切に寄り添いながら理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が未だに終息を迎えておらず、感染予防の観点から関わりは難しいが挨拶は普段からおこない交流できている	事業所に併設された地域交流センターで地域の夏祭りや長寿会、ラジオ体操など町内の行事を受け入れている。地域の老人会の方が事業所内の草取りを手伝っている。保育園児が作品を持って事業所を訪れて利用者と交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年5月8日以前はコロナ禍中の為書面開催で行い、意見を事前に伺い公表するにとどまった	地域の代表者や行政の職員、利用者や家族が参加して定期的に会議を開催している。事業所の活動状況や事故、利用者や職員の状況を報告して話し合っている。家族から面会について意見が出され事業所内で検討して再開している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や社会福祉課とは必要に応じて連絡をとり対応している	介護保険請求の不明なことや生活保護について市の担当者と情報交換している。事故報告などを提出に行った時に情報交換している。市主催の研修会に参加して情報交換するなど協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が玄関近くまで来られ外へ出ていきそうな雰囲気であればさりげなく声をかけ話を聞いて要望に応え安心して頂けるよう努めている	法人内で行われる毎月の委員会に管理者が参加している。委員会の内容を口頭で伝えたり、議事録を回覧したりして周知している。管理者は、気になったことを伝えて話し合っている。利用者の言葉を受け入れて対応し拘束をしないケアを実践している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護虐待防止委員会を中心に基本的な共通理解を示し、統一したケアができるよう研修し不明外傷が無いように職員一人一人が意識し支援を行っている	委員会や研修会を定期的に行っている。虐待チェックリストを活用して職員一人ひとりに意識付けるように取り組んでいる。各ユニットの会議で具体的な事例を挙げて職員間で話し合い、虐待について正しく理解し防止できるように取り組んでいる。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体としての委員会活動で、よりわかりやすい資料の提供を行い、一般職員も理解を深め実践に移すことができる体制をとっている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には心配事には事実をお伝えし不測の事態には協力してとりくむことをお願いしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情などを伝える窓口を設け、それを基に改善すべき内容は話し合っ対応している	面会時や電話にて利用者の状況を伝えて意見や要望を聞いている。写真を掲載した通信と担当職員が書いた近況報告を毎月送っている。家族への満足度調査を行い意見を聞いている。食事の見栄えや毎日の散歩、新聞の切り抜きなど意見を反映している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ以前は運営推進委員会が定期的開催され対面で意見交換ができていたが現在ではZoomの活用や受診時において近況をお伝えしている	管理者は、職員の意見を否定せずに傾聴することを心掛けている。毎月の会議や日常に出された意見や気付きに対して、必ず返答することを心掛けている。職員が意見を言いやすいように話し方や接し方に気を付けて円滑にコミュニケーションを行っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課制度によって自己評価を記入しそれに基づき上司が評価していく事でベースアップやモチベーション増加に繋がっている	家庭の状況に応じて希望休が取りやすいように配慮している。働きやすい職場となるようにハラスメント対策や有給休暇の取得促進、時間外の削減に取り組んでいる。職員の意見を参考にしながら介護用ソフトの見直しを行い、生産性の向上に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から外部研修への参加は難しいがオンライン研修・Zoom研修が行える環境であり積極的に取り入れている	管理者より、外部研修の情報を職員に提供して参加の意向を確認している。正職員、パート職員と区別せずに事業所が費用を負担して研修会に参加している。法人内で介護職員実務者研修を行い希望する職員は出勤扱いで受講している。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での交流は難しかったが今までのネットワークを活かし電話やメールでやりとりを行った		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援を必要とされる部分は 一緒に行い、なるべく手出しをせず、見守り助け合って生活している感覚が持てる様になっている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを大切に得意な事を行える場を支援している	日常的な会話の中から利用者の思いや意向を把握している。夜間に居室で利用者の思いを聞くこともある。困難な場合は、答えやすいように職員から話し掛けたり、問い掛けたりして表情やしぐさから思いや意向を把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍でカンファレンスは行えていないが書面にて情報を共有し家族様の意見を反映し今後の方針を皆で検討している	担当職員が毎月モニタリングを行っている。職員間でカンファレンスを行い、日々の記録や利用者・家族の意向、職員のアイデアや気づきを反映した介護計画を作成している。状態が変化した時や退院時など現状に則して随時介護計画を見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、1カ月ごとにモニタリングを評価しそれに基づきケアプランへと反映し今後の方針を検討していきます	介護用ソフトを活用して日々の様子や利用者の表情、言葉を記録している。職員は出勤時にタブレットにて記録を確認している。職員が閲覧したかどうか確認することができる。介護計画に実施や気づきなどをモニタリングに記入して見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族様の希望や要望に対して出来る限り寄り添い、柔軟に対応できるよう努めている	金融機関への付き添いや成年後見人などその時々利用者や家族のニーズに対応している。帰宅や墓参りなど利用者が希望する場合は職員と一緒に掛けている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症拡大防止の為、交流は控えている。手紙等で交流を行っている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の協力のもと受診をお願いし、施設にて医師・看護師の往診を受けている。その都度手紙・電話にて連絡し情報の交換を行っている	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は、1週間分の記録を書面で渡して結果を確認している。急に状態が変化した時や家族から希望があれば医療機関に職員が同行して結果を家族に報告している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は今の状況を把握するため面会に行き家族様と情報交換し相談を行っている。手紙にてお見舞い・退院見舞いを送っている	管理者は、利用者が入院したときは医療機関まで面会に行き状態を把握している。面会に行けない時は家族や医療ソーシャルワーカーより情報を得ている。退院が決まった時は、医療機関に出掛けて利用者の状態を確認し医療ソーシャルワーカーと情報交換して受入れの準備を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて家族様と話し合いの場を持ち利用者様にとって最良の選択を行っている	契約時に事業所の方針を説明している。状態の変化に伴い、早い段階から家族の意向を確認している。終末期は、医師から家族に説明し、家族と相談して意向に添えるように取り組んでいる。看護職員が、個別の対応について職員に説明している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日バイタルの測定・声かけし体調の変化を早期発見に努めている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、日々安全に行動し、年3回の防災訓練を行い、連絡対応ができるように消防士を呼んで講習を行っている	夜間想定を含めて年2回避難訓練を行っている。風水害や自家用発電機など様々な災害を想定した訓練も行っている。事業所内にハザードマップや避難確保計画を掲示して職員に周知している。利用者情報やマスク、救急セット、ガスコンロなど備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人を尊重し配慮を行い、声かけを心掛けている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応に気を付けている。入浴時に同性介助を希望する方には日時や職員を変更している。職員は、人生の先輩として利用者の思いを受け止めて、少しでも叶えられるように取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思い・希望が口にできない時は表情などから読み取り、ゆっくりと話しかけレクチャーを行っている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、一つ一つ希望に沿って支援を行っている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人に合わせた食事を提供し、美味しく頂けるよう支援している	利用者は、盛り付けや台拭き、食器洗いなど出来ることを手伝っている。誕生会は利用者が食べたい焼き肉や寿司などを提供している。流しそうめんやバーベキュー、ホットケーキやフレンチトーストなど楽しく食事できるように工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に沿った食事を提供し1日に必要な水分量も日々観察を行い、少ない時は栄養補給を行っている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、一部支援を行い、口腔ケアを促し磨き残しの無いよう支援している	毎食後、職員が声掛けして歯磨きを行っている。出来ない方や歯のない方は利用者の状態に合わせて職員が口腔ケアを行っている。月1回協力歯科医が来所した時に職員にミニ勉強会を行っている。法人の歯科衛生士が定期的に事業所を訪れて職員の相談に応じている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄ができる様誘導を行っている。訴えがあった場合はすぐ対応し個々に合わせオムツ・パット類を使用し対応している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入りたい希望があればできるだけ入ってもらえるよう対応している。気が乗らない時は翌日に入ってもらったり時間をおいて声をかけている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態に合わせ、日中でも休んでもいただく。下肢浮腫の強い方は足を挙げて休んでもらっている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届いた時は、処方箋を確認し変更があれば記録に残し申し送りで職員が共有している	平日は、法人の看護職員が服薬を支援している。薬に変更があった場合は申し送りやケース記録に記載し、看護職員より副作用や効用、状態の変化など詳細を説明している。薬のセット、服薬前のチェック、名前の確認など複数の職員が確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の参加や季節感を味わって頂くため散歩したり気分転換に努めている	利用者が、安心して暮らせるように生活歴を把握し、掃除や洗濯、散歩、新聞の切り抜き、亀の世話など利用前に行っていたことを継続できるように支援している。管理者は、日常生活の中で利用者が楽しく過ごすための支援が十分に出来ていないと考えている。	職員間で話し合い、職員の気付きやアイデアを反映して、利用者と職員が一緒に楽しめるような取り組みを期待する。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	洗濯物を外へ干しに行く事で外気を吸う事と足の運動を兼ねている。現在はコロナで難しいが家族様の協力を得て、外出支援を行っている	コロナ禍前は、買い物や喫茶店に職員と一緒に出掛けていた。利用者が希望する時は毎日散歩に出掛けている。家族と一緒に馴染みの理容室や墓参りに出掛ける方もいる。急に外出を希望される場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけ実際に声を聞くことで安心して頂けている。家族様とのやりとりが上手くいくよう橋渡ししている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節に応じた壁飾りをしたり写真を貼っている。照明・空調に気を付け過ぎしやすい環境作りを行っている	食堂に利用者と一緒に作った季節の作品や生花を飾っている。居間や廊下に行事の写真を飾り会話のきっかけとなっている。職員は居心地よく過ごせるように席の配置を考慮し、整理整頓や小まめな換気を心掛け温度や湿度に配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しの合う方と交流支援したり他のユニットとやりとりできるよう行動制限せず、自由に動けるよう努めている。一人の時間も大切にしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全に暮らせるよう物の配置を工夫し環境設定に配慮している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カルチャーホールや2Fユニット間を開放し行き来していただき自由な空間を使う事ができている。所在の確認はしっかりと行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH なでしこユニット		
所在地	大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和5年6月19日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172100832-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本理念と事業所としての年度ごとの指針を作り、具体的実践目標とした振り返りシートにて毎月取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて直接的な交流を行う事は出来ていないが地域の幼稚園などお手紙などの間接的な交流や散歩時の挨拶などで交流している		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年5月8日以前はコロナ禍中の為書面開催で行い、意見を事前に伺い公表するにとどまった		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や社会福祉課とは必要に応じて連絡をとり対応している		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解・行わない支援の実践方法について全職員が定期的に研修を行い取り組んでいる		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について定期的な研修を行い学び防止に努めている。通報義務の理解や見過ごす事の無いようにチェックを行い起こる事のないように支援している		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会を設置し研修も行い学ぶ機会を持っている。委員会を中心に発信をし話し合いを行い理解した上で支援へと活かせるようにしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には心配事には事実をお伝えし不測の事態には協力してとりくむことをお願いしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱・直接の要望へのオープンな場や環境を作っている。要望には速やかに対応し反映させている。外部機関への相談もわかりやすく発信している		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案をしやすいように尊重しながら管理者より発言しやすい機会を作り反映させている		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課にて自己評価や周囲からの評価を行い職員の努力や実績を承認されている。職員からの意見も聞きながら職場環境や条件の整備を行っている		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や力量・経験などを把握し必要な研修・すすめるべき研修を受ける事ができる機会を提供している。勤務内にも組み込み行う事ができる体制を作っている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での交流は難しかったが今までのネットワークを活かし電話やメールでやりとりを行った		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月、お便りで本人様の生活状況を報告させて頂いている。面接時や電話の際にも良い関係が継続できるよう支援している		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人のできる事や思い・ニーズを理解し日々の生活がおくれるよう支援している		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を記録しカンファレンスには現状を共有し今後の方針を皆で検討している。感染症流行期である為家族様には書面でお伝えしている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を記録に残し、変化があればその都度職員間で共有し対応してケアプランに反映している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の思いやニーズに対して出来る限り柔軟に個別の支援に取り組んでいる		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為大規模な集まりは自粛しているが少人数の集まりは注意をしながら行いグループホームの事を理解して頂けるよう努めている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族様との連絡を取り合い希望に沿って個別の受診・往診を実施している。かかりつけ医との橋渡しを行う事で適切な医療が受けられよう努めている		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と家族様の橋渡しを行って情報の共有をおこなっている。手紙でお見舞いをしている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様との話し合いを行い意向に沿えるよう考慮している		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な委員会を通して緊急事態の対応方法を学び入居者様に異常があればすぐ対応できるよう努めている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に様々な場面を想定し避難訓練を適宜行っている。また消防士の消火器操作の指導にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意思を尊重させて頂く。誇りやプライバシーを損ねない支援の形や声かけに努めている		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の様子を伺い本人が自己決定できる環境作りを心掛けている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを優先し日常をすごせるよう支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのペースに合わせて食事の準備をするよう努めている。食器など職員と一緒に片付けをして頂けるよう努めている		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前のお茶の時間や午後のおやつを通して一定の水分量を確保できるよう努めている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし利用者様の意思で口腔ケアに参加して頂けるよう心がけている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し自身で訴えられない方には声かけや誘導を行っている。状況に応じて個々に合った紙パンツやパット等を使用し対応している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決まった入浴日以外にも希望があれば入浴して頂けるよう努めている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて体調に配慮しつつ入眠時間まで過ごせるよう支援している		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セットの時・服薬前・服薬時に必ず2人で確認を行い、飲み忘れや間違いを防ぎ支援を行っている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク行事で季節を感じて頂いたり、体や頭を使う行事を行い、他の利用者様との交流をして頂いている。誕生会では本人様が食べたい物を提供している		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の為外出は難しいが天気の良い日には散歩できるよう努めている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば電話や手紙で家族様と連絡できる様にして頂いている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は毎日清掃し、温度管理を行い生活しやすい環境を整えている。毎月季節感のある壁面作りを行っている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV鑑賞や声かけにて一緒に余暇活動をされ楽しまれたり、時には会話の橋渡しを行い、それぞれの思いに沿った生活ができるよう支援している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様の要望を叶えた物を設置したり壁には飾って欲しい物を飾り定期的に整理整頓や清掃を行っている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすで自走される方や杖歩行の方に対し動線上に不用品を置かず、安全に生活して頂けるよう見守り支援を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH すずらんユニット		
所在地	大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	令和5年6月19日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172100832-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各ユニットの出入り口付近など職員の目に付きやすい場所へ基本理念や指針を貼り意識して職務にあたっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域交流となる行動は内部利用者様と職員のみで催しているが近隣住民への挨拶など気遣っている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年5月8日以前はコロナ禍中の為書面開催で行い、意見を事前に伺い公表するにとどまった		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や社会福祉課とは必要に応じて連絡をとり対応している		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員全員が研修により理解している。玄関の施錠だけでなく身体拘束とならないケアを行っている		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員全員が研修を行い知識を高め理解した上で職務に当たっている。不明外傷などは原因究明を行い再発防止に努めている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が理解しやすい資料を用意して学びながら実践できるよう連携をとって支援している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には心配事には事実をお伝えし不測の事態には協力してとりくむことをお願いしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情などを伝える窓口を設け、それを基に改善すべき内容は話し合っって対応している		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により理事長が直接面談する機会は失われているが必要となれば対応できる環境は整っている		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個人によるとは思うが人事考課の自己評価により、ベースアップや仕事のやりがいに繋がっている人もいる		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のレベルに合わせた研修を促し意見表明する機会を設けてフィードバックできるようにしている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での交流は難しかったが今までのネットワークを活かし電話やメールでやりとりを行った		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は一緒に行い、利用者様の尊厳を守りながら家族様と共に過ごし支え合える関係を作っている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の希望や意向を把握し生活の支援を行っている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスでの家族様の意見を反映し本人様がよりよく暮らして頂けるよう今後の方針を皆で検討している		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をしっかりと記録し変化等がある場合は職員間で共有し今後の方針を検討している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の希望に出来る限り対応できるよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の情勢に伴い自治会や地域の方がカルチャーホールを使用される際には換気・消毒を徹底して頂けるよう努めている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と連携して個々に受診・往診の対応をしている。その旨を手紙や電話で伝達している		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人様への面会や家族様との連絡にて情報伝達し共有している。手紙にて入院見舞いや退院見舞いを送らせて頂いている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の考えに合わせて最良の選択を検討しながら情報共有している		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタル測定をはじめ、日常の体調変化に留意しながら対応している。事故発生時の初期対応の実践も行っている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や防災委員会を中心に行っている。様々な災害を想定し対応できるようにしている。訓練後には消防士から講習を受け災害に対応する意識を高めている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な受け答えを心掛け個人の尊厳を尊重する対応に努めている		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りの希望に沿えるよう思いを受け止め支援している		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どの様に過ごしたいか希望に沿い一人一人のペースに合わせて支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食べやすいサイズに切って提供し美味しく食べられるよう支援している		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事・水分量を確保できるよう観察して支援している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し支援介助している。 週に1度義歯・コップ・歯ブラシの消毒を行っている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行き排泄したいという思いを尊重しながら排泄パターンを把握し声かけや誘導を行っている。状況に合わせて個々に合った紙パンツやパット等使用している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決められた入浴日以外でも希望があれば思いに沿い対応している。入浴を嫌がられる方には声かけを行いその方のタイミングに合わせて入浴して頂いている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の気持ちを考慮しその方のペースに合わせて休息を行い無理のない様、生活支援を行っている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の内容は記録に残して理解している。服薬支援は看護師が対応し看護師が来られない日は職員2人で確認しながら行っている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の余暇活動では個々に合った事を行って頂き誕生会や毎月のレクリエーション・季節ごとの行事に参加して頂き楽しみと気分転換して頂けるよう努めている		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で感染対策の為外出するのは難しいが天気の良い日は近くを散歩できるよう支援している		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば家族様に連絡して電話やリモート面会ができるよう努めている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は毎日掃除を行いエアコンを使用し適温を保ち居心地よく過ごせるようにしている。毎月季節に合わせて壁飾りを貼り季節感が出るよう工夫している		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の会話の橋渡しをしたり一人一人がやりたいことができるよう声かけや見守りをやっている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のペースに合わせて居室で休息したり読書してみえる。居室内は定期的に掃除・整頓を行い壁には行事の写真や誕生日カードを飾っている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安心・安全に生活して頂けるよう席の配置や物の配置を定期的に検討し安全な動線を確保して見守りをやっている		